

〈再 録〉

コウヤマキ (*Sciadopitys verticillata*) に見られたParis-typeのアーバスキュラー菌根山原美奈・河合昌孝・大場広輔¹⁾

日本森林学会誌 87:157-160 (2005)

陸上植物の約80%は根において菌類と共生し、菌根と呼ばれる共生体を形成している。菌根は形態や宿主と菌の組み合わせによって複数に分類される。これらのうちアーバスキュラー菌根は、菌根菌の感染形態により、Paris-typeとArum-typeに分けられ、その生態的意義が議論されているが、森林上層を形成する木本植物についてはほとんど調べられていない。そこで今回、コウヤマキのアーバスキュラー菌根の感染形態を明らかにするため、短根の切片を光学顕微鏡で観察した。その結果、宿主の細胞から細胞へと直接伸長する菌糸とコイル状樹枝状体、嚢状体が認められ、Paris-typeの感染形態であることが判明した。同様に観察したスギの菌根はParis-type、ヒノキはArum-typeで既報の感染形態と一致していた。

キーワード：コウヤマキ、アーバスキュラー菌根、感染形態、Arum-type, Paris-type

¹⁾：横浜国立大学大学院環境情報研究院

青森県産ヒバ材および石川県産アテ材の野外耐久性

酒井温子・岩本頼子・中村嘉明¹⁾

木材保存 31(5):207-213 (2005)

奈良県森林技術センター明日香実験林において、ヒノキ科アスナロ属ヒノキアスナロ材の野外杭試験を実施した。供試したのは、石川県産のアテの3品種（マアテ、スズアテおよびクサアテ）と青森県産のヒバで、いずれも心材であった。スズアテ心材とクサアテ心材の地際部における野外耐用年数は4年、マアテ心材は5.5または6年、ヒバ心材は10年であった。既往の研究結果との比較から、スズアテ心材とクサアテ心材の野外耐久性はスギ心材と同程度であること、またマアテ心材とヒバ心材はヒノキ心材やサワラ心材よりも高い耐久性を有していることが明らかになった。

キーワード：ヒノキアスナロ、耐久性、耐用年数、野外杭試験

¹⁾：現、ウッドモンド技術士事務所